

研修のすすめ方

- ① 研修を希望される日の1ヶ月以上前に、高等教育研究センターまでお申し込みください。随時承ります。その際、部局名、希望される研修プログラム、ご希望の日時、その他のご要望について明記してください。

申し込み先: 高等教育研究センター
東山キャンパス文系総合館5階
電話: 内線5693(夏目達也研究室)、ファックス内線5695
Email: info@cshe.nagoya-u.ac.jp

- ② お申し込みがあつてから、2~3日以内にお返事を差し上げます。ご希望の日時に添えないこともございますので、ご了承下さい。

- ③ 実施決定後、日時・内容・方法について高等教育研究センターの担当者と事前打ち合わせをいたします。研修の対象者、ニーズなどをお聞かせ下さい。

- ④ この研修では次のようなサービスをご提供します。

- ・相談(部局のご要望をお伺いします)
- ・企画(ご要望に沿って、研修当日の内容を組み立てます)
- ・実施(研修当日の進行役を務めます)
- ・教材(研修教材をご提供します)
- ・研修の評価と今後の課題の整理(研修後に各学部・研究科のご担当者と高等教育研究センターの担当者と話し合います)

- ⑤ 研修参加者に対するアンケートにご協力ください。

『名古屋大学教員のための教育研修プログラムのご案内』

名古屋大学高等教育研究センター編

2006年5月1日発行



名古屋大学教員のための 教育研修プログラムのご案内

— 学部・研究科の教育力を高めませんか —

社会に有為な学生を育てること、そのために質の高い教育を行うことは、どの研究科・学部においても重要な関心事になっています。そのことは教育や各部局に対する学生の満足度を高めることになり、来年度に迫った認証評価に対応することにもつながります。

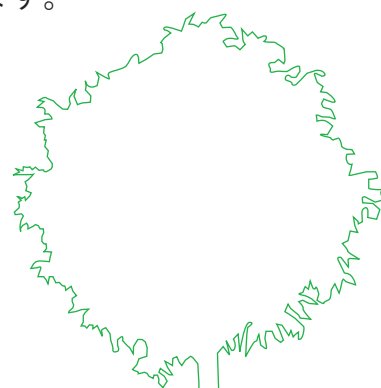
高等教育研究センターでは、このたび、新たなプログラムを開発して、学内のみなさまの要望に応えることにしました。各部局の教育力を高めるために、ぜひこのプログラムをご活用くださるようご案内申し上げます。

この研修プログラムのねらい

- ＊各学部・研究科の教育力を高めることをめざします。
- ・授業改善に必要な基礎的な知識やノウハウを提供します。
- ・各学部・研究科による組織的な授業改善の指針を提供します。
- ・教育・授業についてのコミュニティをつくる支援をします。

研修プログラムの内容

各研修は90分を目安としていますが、各学部・研究科のご要望に応じて一部を変更することができます。



01

現代の大学生

今の大学生が何を考えているかわからずに困ったことはありませんか？ この研修では現代の大学生の学習・生活状況、学習意識について学び、大学生がどのように知的発達を遂げるのかについて理解を深めます。

最初に、名大生の学習・生活上の変化についての調査結果をクイズ形式で学びます。次に、大学生の発達に関する国内外の理論的知見を紹介し、大学生の発達を促すような教授法を学びます。

02

シラバス設計法

シラバスは、学生の授業に対する知的好奇心を刺激し、主体的な学習活動を促す上で重要な役割を果たします。そこに難しい方法論はありません。いくつかの基本的なポイントや手順をふまえることによって、学生の学習を促進するようなシラバスを設計することは可能です。

研修では、明確な目標設定や各回の授業計画、授業時間内外の学習課題の配分など、具体的なシラバス設計のこつやステップを案内しながら、実践的なシラバスの設計手法を紹介します。

03

大学教授法の基礎

高校までの教員と違い、大学教員は教え方に関して十分に研修を受ける前に教壇に立つこともあって、授業がうまくいかないと思う人も少なくないでしょう。授業では、何を教えるかという視点は大切ですが、どうやってそれを学ばせるかという教授法の視点も同様に大切です。

学生はどのような状況においてより学ぶのか、そしてどのように教えると教育効果が向上するのかという教授・学習理論の基礎と、実際に役に立つ具体的な方法を紹介します。

04

メディアを活用した教授法

最近ではパワーポイント、メール、インターネットなどの新しいメディアを活用して優れた授業を実践している教員が増えてきました。メディアをうまく授業に活用することができれば、小さな力で大きく授業を改善することができます。しかし、ただ導入しただけで自動的に授業がよくなるわけではありません。

大学の授業に利用できるメディアにはどのようなものがあるのか、それぞれのメディアの強みと弱みはどのような点にあるのか、そして、よりよい授業を実現するためにどのようにメディアを活用したらよいのかを紹介します。

05

多人数授業の教授法

名古屋大学は他大学と比較すると少人数の授業が多いのですが、中には100人を超す授業もあります。一般に、クラスサイズが小さい方が教育の質や学生の満足度は高まる傾向にあると言われてはいますが、工夫次第で多人数授業でもこれらの水準を維持することは可能です。

本研修では、多人数クラスで一定水準の教育の質と学生の満足度を確保するためには、大学としてどのような条件の整備が必要なのか、授業を担当する教員にはどのような配慮や工夫が求められるのか、限られた条件の中で教員にできる工夫は何か、などについて紹介します。

06

成績評価の方法

認証評価や他大学との単位互換において、成績評価は重要な意味をもっています。日本の大学の成績評価は評価の方法は示しても、評価基準については不十分であると言われてきました。ここでは、国際水準に耐えうる成績評価の基本について紹介します。

最初に、成績評価に関して日本の大学でどのようなトラブルが起きているかの事例を紹介します。次に、成績評価の具体的な方法（授業目標に即した評価、成績評価の方法と基準など）について理解を深めます。